

幸せを探しているあなたに

なぜ人間は**幸せ**ではないのでしょうか

ほんとうに、満たされていて幸せですか？ 幸せでなければならぬ人が幸せを見つけられずに、苦しみの中にいる理由は何でしょうか。ある人は家庭問題、健康問題、経済問題、精神問題などを持って苦しんでいます。幸せがなくて、お酒、ギャンブル、ダンス、やりたい放題してみるのですが、結局は、さらに不幸になっていきます。いったい、なぜ人間は幸せではないのでしょうか。

神様を離れているためです 根が抜けた木が生きることができないように、水を離れた魚が生きることができないように、神様を離れた人間は幸せになれないと聖書は語っています。それなら、人間はなぜ神様を離れるようになったのでしょうか。神様の約束に不順従になって、神様を知らなくなって、その結果、罪と苦しみの中に陥るようになったためです。そのために、精神的な苦しみ、やりがいとバランスが崩れた生活、体の病気で苦しむようになったのですが、分かってみれば、すべて神様を離れた霊的な問題から始まったのです。これを解決するために、人々は解決策として迷信や宗教を探すようになりました。

いつからこの不幸が始まったのか聖書は知らせています 人類が始まったアダムとエバの時代から始まりました。彼らはサタンの誘惑に負けて、神様との約束のしるしであった善悪の知識の木の実を取って食べて神様を離れるようになりました。この時から、人間の苦しみと問題は始まったのです。

この不幸はいつまで続くのでしょうか この結果で訪れてきた人間の不幸は、今でも続いていて、ますますひどくなっていきます。むしろ解決しようとすればするほど、この世には人間が解決することができない不幸のニュースがもっと増えていきます。

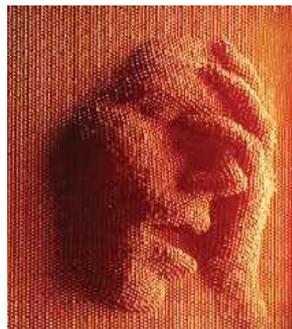
それでは、なぜこういう不幸がなくなるのでしょうか 不幸をもたらす者がいるからです。聖書は、その名前について確かに明らかにしています。サタ

ンは、敵対する者であり、神様の働きを妨害する存在で、悪魔は神様と人間の間を引き離して、神様を知らなくさせます。数多くの悪霊(惑わす霊)を働かせながら人間を倒し、あらゆることをして不幸の中に陥るようにさせています。彼らは天で神様に敵対して墮落した天使で、空中に追い出され、地球に出現して人間をほろびるようにさせているのです。結局、この存在は、さばきの日には地獄に行くようになっています。このような悪の勢力があるから、不幸の問題は、人間自らでは解決できないのです。

神様を知らなければ、どうなるのでしょうか 私も知らない間に、生涯、悪魔の子どもになって、理性で理解できず、原因も分からない苦しみと霊的問題に苦しめられるようになります。一晩中、楽しんでいるのに、心が何となく寂しくて、安らぎがない理由は何でしょうか。神様を離れているからです。人々が、幸せを求めて、お酒、麻薬、占い、お祓いをしに行ってさまよいます。しかし、世の中で得る平安は、しばらくだけです。快樂は瞬間的な満足であって、真の幸せではありません。その後には、必ず虚無と呪い、もっと大きい不幸が付いてくるようになっていきます。結局、この世を離れる日、地獄に行くようになります。この問題をどのように解決したらよいのでしょうか。

ここから永遠に解放される道があります 罪とサタンに捕われた人間は、いくら努力しても抜け出すことができません。それで、神様が救いの道を開かれたのです。それは、罪とサタンを打ち砕かれた神様の息子イエス・キリストを信じて受け入れる時、神様の子どもになる特権が与えられるということです。だれでも、今、この時間にイエス・キリストを受け入れれば、神様の子どもになって、神様が永遠にともにられるようになるのです。

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイの福音書 11:28)



疎通のリーダーシップ

疎通 (communication) のリーダーシップ ノーベル物理学賞受賞者であるロバート・B・ラフリンは、2004年「ノーベル賞総長、KAIST 最初の外国人総長」として、大きい期待と関心を一身に受けて韓国舞台に派手にデビューした。しかし、2年後、ラフリン総長は、KAIST をさびしく離れなければならなかった。4年の約束だったが、半分を満たしただけであった。理事会が提起した問題は、彼のリーダーシップだった。彼は KAIST 私立化と、総合大学化などを推進したが、日が経つにつれ、構成員との葛藤の谷は深まるだけだった。権威的なリーダーシップが君臨する時代は、遠い昔に過ぎた過去のことだ。リーダーシップも、今は疎通なのだ。

最初の更新-疎通 私たちは、多くの更新をすべきであるが、一番最初のことが疎通だ。

個人疎通-最も速いのが個人の疎通だ。 コリント第一 16:18 節を見れば「彼らは、私の心をも、あなたがたの心をも安心させてくれました。このような人々の労をねぎらいなさい。」とされている。もどかしく思わせることほど、難しいことはない。家族であっても同じだ。それで、重要な部分が疎通だ。人を見た時も、個人をよく理解しなければならないが、個人に対するメッセージを悟ることがとても重要だ。私たちが正しく神様と疎通しなければ、不必要な誤解、不必要な損害をこうむるようになる。

教会疎通-そして、それから、教会の中で疎通がうまくいかなければならない。 長老には、終わりなく入って行くことができる畑がある。こういう部分で、よく疎通しなければならない。今年からは、重要な人材と弟子を探して立てる作業もしなければならない。そして、按手執事、勸士もやはり、長老と疎通が円滑にできなければならない。

現場疎通-現場疎通の中でとても重要なのが、文化を理解することだ。 それでこそ、現場を生かせる。その次に重要なことは、人に対する理解である。特に人間関係が理解できなければならない。その次に、伝道理解であるが、最も重要なのは、神様の祝福を私が味わうのが伝道だという事実を自分から体験しなければあらないことだ。私が味わっていれば、他の人も知るようになる。これが伝道だ。そして、イエスのいのちがない現場を生かすために伝道戦略もいっしょに立てなければならない。疎通だけよくできれば、多くのことを見る目が開かれる。伝道の門も自然に開かれることを見るようになる。重職者は、神様の心をすっきりとさせるくらいの祝福を受けた指導者だという事実を知って、絶えることのない疎通を通して、妨げる垣根をなくす恵みの中にとどまるように願う。

神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決してくださったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

神様の子どものお五つの確信

- 1 救いの確信:** イエス・キリストを信じて受け入れたあなたは、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15~16、Iヨハネ 5:10~13)
- 2 祈り答えの確信:** 神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 導きの確信:** 神様は聖霊であなたの中に、あなたのおすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26~27、箴言 3:5~6)
- 4 赦しの確信:** あなたのおすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さい(ヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 勝利の確信:** 救われたあなたは、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31~37、Iヨハネ 5:4)

神様の子どものお毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともに、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタン勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できま

すように。今も私とともに、おられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

現場から
送られてきた
幸せの手紙

神様は一生、私と同行される美しい方

私は韓国舞踊家です。現在、大学舞踊学科の教授として在職中であり、伝統舞踊家として200回あまりの国内公演、20回あまりの海外公演を持っています。体育学の博士の学位を持って25年間、後輩の学者を教えています。4才の時から踊っていました。自分自身はとても苦しかったのですが、外から見れば、たくさんうらやましがられる人生でした。しかし、このような栄光とうらやましさを裏面には、いつも虚しさが後に従っていて、どこかから来るねたみと悪口勝ち抜かなければなりません。公演が終れば、大きな孤独と虚脱感に襲われました。これをどうすることもできず、他の舞踊家と打ち上げをしながら、夜中の三時まで絶えず踊ったり、歌ったりしていました。

舞踊を始めて30年くらいになったある日、私が教坊の舞踊公演をしていた時でした。教坊の舞踊には、手ぬぐいを落として、また口でかむ場面があるのですが、その公演中に私が手ぬぐいを口でかむと、客席である人が私と同じように手ぬぐいを口でかんで私をながめているのでした。私は公演中にとっても当惑して「これは何だろう」と思った短い瞬間に、何か分からない何かが自分のからだに入ってきたのです。その時から、決まったとおりに踊るのではなく、神がかりの踊りを踊るようになりました。予定された10分を越えて20分が過ぎても、私が悟ることができない、神がかりという言葉そのまま、霊にとりつかれて踊るようになりました。マスコミや観客は、私の実状を知らないまま、私の姿が神がかりの人のように完ぺきな公演だとほめました。

韓国の伝統は、多くの部分が迷信と偶像崇拜と密接に関連していて、霊媒師が踊る踊りまで伝統文化だと認定されています。このような踊りを職業に持って、次世代に教える私は、ますます時間が経てば経つほど、あまりにも大きいうつ病に苦しむようになって、夜ごと寝られなくなったのです。精神科でもらう薬と睡眠薬をいつも飲んでいましたし、睡眠薬を過剰に服用して、入院を二、三回したりもしました。何のために、このような苦しみを味わうのか

も分かりませんでした。私が最高の位置にいた時、事実、私は底に投げ飛ばされた状態でした。ガンにもなって、病院にいました。

その時、私の友人を通して、教会の牧師先生のメッセージテープを聞くようになりました。それ以後、神様に会うようになって、約1年前から教会に出席しています。現在、自分の家族や周囲の人々が私の変化を喜んでいますが、大きな虚脱感や孤独で現れる悪霊から自由になって、自分自身が安定していきつつあることを悟りました。よく分からないのですが、このごろ私は祈りもしたくて、しばしば心が楽しくなり、牧師先生のみことばテープをしばしば聞きたいのです。深い黙想をするようになるときは、心が安らかで幸せになります。これが聖霊の働きではないかと思います。

特に舞踊界には、私のように精神的に、霊的にさまよっている若者、同僚、先輩が多いのです。彼らに、だれも手を伸ばして助けを与えていません。私は、神様が与えてくださった私の体験のとおり、舞踊界の先輩や後輩に私が体験した体験を話して、現場でともに心を分かち合おうと祈っています。事実、教会に通って1年である私が「神様は私の友だちであり、私の一生、私と同行される美しい方」だと周辺の人に紹介する姿は、少し、見慣れなくて、おかしいでしょう。伝統舞踊界という現場は、サタンの働きによって、福音を正しく悟ることが難しいのです。私が聖霊の中にいつもいられるように、そして伝統舞踊の現場のためにも、多くの祈りを願います。

(都市島の人々の話)の中から



挑戦はこのようにしてみましょう。聖なるように



イラスト_ユン・スルギ

私たちの前に置かれた新しい日々は、私たちの人生にとって、一度も行ったことがない未知の世界です。毎日与えられる時間は、すべてが新しい日々ですが、新年を迎える新しい日々は、もう少し重要な意味があります。それは、いろいろ多様な決心と決断と希望で開始されるからです。言ってみれば、このようなことです。

「タバコをやめるべきだ。お酒を節制して、今年は家族と過ごす時間を持ってみよう。ダイエットを始めてみようか。運動をして健康を整えなければならない。英語の勉強や中国語の勉強を始めなくては、今はグローバル時代ではないか、こういうことをしては、上がってくる若い世代に押されるのではないだろうか。今年には本をたくさん読んで、教養を広げてみよう。節度ある生活で貯蓄をして、老後の準備を始めなければならない」

この程度は、大部分の人々が三日坊主で終わったり、時間が経つほど決然としていた意志があいまいになってしまう挑戦であるのが常で、たとえ、そのまま実践しなかったとしても、だれも大きく叱ることもなく、ただ「ふう、今年もだめだったな...」と、にっこり一度笑い流して、次の年に先送りしても大きく叱責される必要もないので、新年ごとに繰り返す、新しいこともない愛きょうのある挑戦です。大部分が、きわめて肉体的なものから出発しているものです。ところで、もう少し霊的で真剣でレベルが高い挑戦もあります。言わば、目に見えない神様と裏面契約を結ぶことです。

「新年には定刻祈りを回復しよう。礼拝だけは神様の前で死守すべきだから、土曜日には絶対にTVなどは夜遅くまで見ない。コンピュータの前にはぜったいに座らない。ゲームで時間をつぶしたり、友だちの約束はまったくしない。これらは、敬虔な生活を駄目にする悪魔なのだ。神様の前で十分の一献金、感謝献金、建築献金は、必ずささげる。聖日献金は当然のことだ。信じます。真実な神様！経済の祝福を受けてこそ世界福音化するというのは神様がさらによくご存じだからです。そうです。献金を出して、礼拝をささげる前に先に仲直りしなさいと言われたので、新年には祈りの力で許して受け入れて、

人間関係を回復しなければならない。家庭で、学校で、職場で、教会でも…。以前のことは記憶もすると言われたので、過ぎた日の失敗は未来に向かった祝福の土台であるから、考えの中でいっぱいになってしきりに悩ます傷から消そう。そうしながら、常時祈りで霊的戦いを血を流すほどしてみよう。すでに来ている答えだから、新年には福音を本当に味わおう！」

まったく普通の人は考えることもできない、極めて霊的で素晴らしい挑戦です。ところで、このように神様がご覧になるのに立派な決断が正しく実践できれば本当に良いでしょうが、万一そうではない場合、そのまま笑い流すだけではない結果もたらされるということに、その深刻性があります。肉的決断は自分との約束である反面、霊的な決断は神様との契約だからでもあります。自分自身はだましても神様はだますことができないためです。

かと言って、神様は大きく叱られる方でもありません。むしろその反対です。長く耐えて待つ方なのです。単に、神様との約束を守れなかったという自責感の中で、神様が罰を与えられるという恐れの中に陥る不信仰、これこそが人間主義的な自分の基準と律法的な判断から始まった信仰生活の最大の敵で、最も警戒しなければならないサタンの通路です。

それなら、新しい年、新しい日々の中でどのように挑戦しなければならないのでしょうか。「聖なる挑戦」これだけが解答です。世の中の人々は、そして、キリストの奥義を知らないパリサイ人、律法学者、宗教人は、自分の義と努力で挑戦してみようと、もがくでしょう。

しかし、キリスト・イエスの中にいる神様の子どもは彼らとは違った「区別された」方法で挑戦すべきです。「聖なる(Holiness)」というのはクオデシュ(Qodesh)、すなわち「分離、区別、遮断」を意味すると言われます。自分の野望や動機ではなく、神様の夢と神様の情念が最高に入った願いであるために、神様の聖なる方法であるキリストにあって、神様の知恵と神様の力で「聖なる」挑戦をするのです。

「しかし、ユダヤ人であってもギリシヤ人であっても、召された者にとっては、キリストは神の力、神の知恵なのです」(コリント人への手紙第一 1章 24節)

随筆家、イエスサラン教会 牧師夫人キム・ユスン

*相談したい方はこちらまでどうぞ